

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



小林式誘引捕獲によるシカ被害対策の推進

【保全課】

近年、全国的にシカの個体数増加や生息域の拡大が深刻な問題となっており、全国の森林の約2割でシカによる被害が確認されています。シカの生息分布は1978年以降大きく拡大しており、2014年までの36年間で分布域が約2.5倍に拡大している状況です。被害を防ぐには防護柵や忌避剤等による防除と併せて、シカを捕獲して個体数を減少させる必要があります。このため、近畿中国森林管理局では、委託事業や市町村など地域の関係者との協定のほか、職



写真1 小林式での設置状況

員実行による捕獲を行っています。

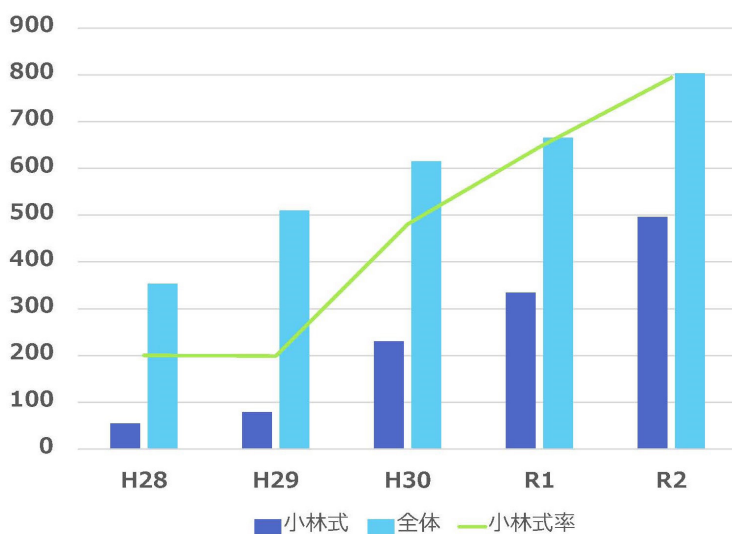
捕獲方法としては、これまでけもの道へ「くくり罠」を設置する手法等が主でしたが、現在は、シカの習性を応用した新たな捕獲手法である小林式誘引捕獲を普及させて捕獲実績を伸ばしている状況です。

小林式誘引捕獲とは、当局職員が考案した捕獲方法で「くくり罠」の周囲に誘引するための餌をドーナツ場に設置し、前足が罠にかかりやすくするなるよう工夫することで、シカに警戒されにくく、簡単で効率よく捕獲できる手法です。(写真1)

小林式誘引捕獲は、令和2年9月発行の森のひろば (No,1135) でも紹介しておりますので、併せてご覧ください。

この小林式誘引捕獲の導入等により、平成28年度は当局管内で353頭(うち小林式55頭)の捕獲であったのに対して、令和2年度は803頭(うち小林式496頭)と大きく捕獲数を増やすことができました。(図-1)

捕獲頭数



小林式率

図1 近畿中国森林管理局管内におけるシカの捕獲実績図



写真 - 2 : 普及活動の様子 (九州森林管理局)

そこで令和3年度は、他局への支援として関東森林管理局及び九州森林管理局への普及活動にも取り組んでおり、全国的に問題となっているシカ被害対策の推進に貢献できるよう努めています。(写真 - 2)

また、シカは広範囲にわたり移動するため、国有林の捕獲だけでは対策が不十分です。民有林被害や農業被害も深刻であるため、自治体や林業経営者、猟友会等への普及活動を通じて民有林と連携した対策も実施しています。(写真 - 3、写真 - 4) 地域での取組内容等については、地元の森林管理署等へお問合せください。

今後も小林式誘引捕獲等によるシカの捕獲を推進し、林業のほか農業分野などへの普及にも努め、広域的な対策によりシカの被害低減を図っていきます。



写真 - 3 : 日本林業経営者協会での勉強会の様子



写真 - 4 : 兵庫森林管理署 現地検討会の様子

近畿中国森林管理局ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sodateyou/171225.html>



動画も公開しています。

ニュース

兵庫県立山崎高等学校の国有林見学実習を行いました。

【兵庫森林管理署】

兵庫森林管理署では10月7日(木)に、兵庫県立山崎高等学校の要請により森林環境科学科の生徒22名を受け入れて、河原山^{かわらやま}国有林において、造林事業と木材の伐採・搬出事業の現場での見学実習を行いました。

皆伐跡地の新植箇所においては、獣害防止の防護柵を設置している箇所の見学を行いました。現場を管轄する首席森林官から、当地域ではシカの生息密度が高く、防護柵を設置せずにスギ・ヒノキ等の苗を植栽すると、大部分の苗木が食害を受けるため、獣害対策として防護柵を予め設置していることなどの説明を行いました。



高性能林業機械の説明を聞く様子

次に伐採・搬出の現場に移動し、チェーンソーによる伐倒作業で次々と伐倒される迫力と地響きに、多くの生徒達が驚きと歓声をあげていました。続いて行われた高性能林業機械による実演では、立木の伐倒・枝払い・玉切り・はい積み作業を見学し、労働環境の厳しい林業の現場においても高性能林業機械が導入され、少人数でも安全で早く作業を行うことが出来、しかも肉体的疲労も大幅に軽減されることの説明を受け、1台数千万円の金額にも驚きながらも、「自分も将来高性能林業機械に乗りたい」など、生徒達の中には林業に就職したいと話す生徒もいたりして、将来の担い手として期待しています。

見学実習中は、説明者の説明を真剣に聞き、メモをとるなど、机上では感じる事のない林業を肌で感じる事が出来、生徒達にとって有意義な見学実習となったと思います。

「安寿^{あんじゅ}の森」で第32回ふれあい森林教室を実施しました。

【島根森林管理署】

島根森林管理署では10月7日(木)に、「多様な活動の森」協定を結んでいる安寿^{あんじゅ}の森(吉田国有林)と吉田交流センターにおいて安来市立南小学校の5年生13名を迎え、地元^{ことぶき}の吉田「寿」会や吉田交流センターの皆さんとともに、記念植樹や森林教室などを行いました。



植樹と記念標柱の設置

森林教室は平成2年度から毎年開催されており、今回で32回目となります。

森林教室では、島根森林管理署の職員が紙芝居を用いて「森林の働き」についての説明を行いました。



作品作りをする児童と寿会の方

その後、間伐材の板と木の実やつる等の森林の恵みを使ってネームプレートを作りました。児童たちは「待ってました！」と言わんばかりに素早く材料を選び、作品づくりに取りかかっていました。間伐材の板をもらった児童たちからは「いい匂い！」と話す声が聞こえてきました。

閉講式では、児童代表から「森林の働き、大切さがとてもよく分かりました。素敵な作品ができて良かったです！」との挨拶があり、今回の記念植樹や森林教室が「森林の大切さや自然の暮らしの素晴らしさを考えるきっかけになってくれるといいな」と思いました。

令和3年度業務研修（専門業務研修）測定（測量）西中国ブロック 実務研修の実施しました。

【保全課】

10月12日(火)から10月15日(金)まで、国有林の境界管理に必要な測量技術の習得を目的として、西中国ブロック（山口所・島根署・広島署・広島北部署）研修を山口森林管理事務所管内の藤目谷^{ふじめだに}国有林で実施しました。

国有林の境界管理は、国民共通の財産である国有林野を適切に保全管理し、将来にわたって国有林野の使命を十分に果たすために極めて重要な業務です。近畿中国森林管理局管内の国有林は境界総点数 445 千点、境界線の総延長は 10,380km あります。

国有林は徳川幕府や各藩の所有していた森林のほか、明治4年に「社寺^{じょうち}土地令」により、旧社寺領を国有地に編入した森林や明治政府による土地台帳整備時に所有者がなかった森林などから成り立ちました。その後、皇室所有林からの移管や保安林整備促進法による買入れを経て現在のかたちになりました。最古の国有林の境界標は設置後 100 年以上経過しています。



トータルステーション[※]の取扱説明



測量データに基づく計算実習

近年は、明治以来の境界標の老朽化や自然災害の多発もあり、補修や改設が必要な区域が増加傾向にあります。

そのため、技術者の養成を目的として管内を5ブロックに分け現地で実習を行い、技術の向上を図りました。

なお、測量技術は大きく分けて、トータルステーションの使用、測量成果に基づく計算、境界標の埋設の3工程があり、ブロック研修ではすべての工程が学べるようにカリキュラムを構成しています。近年の測量技術は、衛星を利用した

GNSS 測量やネットワークを利用した TKT-GPS 測量など、日進月歩の状況にあります。国有林の境界標設置については立地条件の問題もあり人力による標柱埋設が主体です。

正確な場所に適正に設置する技術は、経験することが習熟の第一歩です。

研修生は、頭脳労働から肉体労働まですべての工程を実習し、習得した技術を持って帰路につきました。

今後はそれぞれの現場で技術の伝達や率先して測量業務に取り組んでいただけるものと期待しています



境界標の埋設実習

※トータルステーション（Total Station TS と略する）とは、測量機器の一つで、現在、あらゆる測量の現場で最もよく使用されています。従来は別々に測量されていた距離と角度を同時に観測し、得られた角度と距離から新点の平面的な位置を容易に求められます。

ニュース

鳥取自然休養林で「ボランティア清掃活動」を実施しました。

【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、10月16日（土）、管理する道の側溝に堆積した土砂を何とかしたいと声をあげた職員の呼びかけに賛同した15名（職員有志10名とOB5名）



清掃に取り組むOBの方々

が集まり、鳥取自然休養林のボランティアによる清掃活動を実施しました。鳥取自然休養林は森林浴やハイキングなどが楽しめる鳥取市近郊に位置し、麓のおおだに栲 谿公園から本陣山山頂まで徒歩で1時間弱で行けることもあり、平日、休日を問わず多くの人々が利用しています。

側溝に溜まった土砂はパンパンに締まって、作業をしんどくさせます。いつから溜まっているのだろうと思い



力を合わせて清掃しました

ながら作業すること2時間。目標としていたルートの子清掃作業が完了しました。

大汗をかきながら作業をしていると、「ご苦労さま」「ありがとうございます」とウォーキング中の市民から多くのねぎらいの言葉をいただき、この一言一言が大変嬉しく、ボランティア清掃活動のご褒美となりました。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○森林のギャラリー（局庁舎1階）現在の展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

12月1日から「大阪府立環境農林水産総合研究所」「滋賀県木育推進協議会」の展示を行う予定です。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信117号を発行しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙（53通目）を発行しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami.html>



花草木

【コナラ】

コナラ（小櫛、学名：Quercus serrata）はブナ目ブナ科コナラ属の落葉広葉樹で、別名はホウソともいいます。

北海道北部及び沖縄を除く日本各地に分布するブナ科の落葉広葉樹でクヌギと共に雑木林の主となることが多く、ドングリができます。このドングリはアクが強いため生で食べるのが適さないものの、里山の生き物の貴重な食糧にもなっています。

また、コナラは伐採しても切り株さえ残していれば再生し易く、木材は火力が強く、火持ちも良いことからコナラの木材は家具材、シイタケのホダ木、薪として使われ、日本人の生活に大変に馴染みが深い木です。一般に「ナラの木」という場合、コナラあるいはミズナラを示すことが多いですが、コナラは丘陵地に、ミズナラはより高い山地に見られ、コナラよりミズナラの葉はより大きく、葉の縁のギザギザが分かりやすく、葉を上から見た場合、コナラには1センチほどの葉柄（葉と枝を結ぶ緑色の茎）が見えるが、ミズナラは短い葉柄が葉に埋もれ、枝から直に葉が生じているように見える等の特徴があります。



大阪市内の公園で撮影したコナラの木とドングリ

我が所のスタッフ

奈良森林管理事務所

宮岡 響 (みやおか ひびき) (平成31年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループに所属し、主に造林、ふれあい業務を担当しています。

造林業務については、現地での調査から事業発注事務まで携わっており、一連の流れを体験することによって、入庁した頃は漠然としか分からなかった業務内容が分かるようになってきました。また、監督職員の補助業務にも携わるなど、森林官さながらの仕事は、とても良い勉強・刺激となっております。

ふれあい業務については、1年目から携わっています。奈良所は由緒ある神社仏閣が多く、特に春日大社、興福寺、東大寺、法隆寺は「古事の森」を通して深い関わりがあり（奈良所には「古事の森」を2カ所も設定しています！）、私も「古事の森」イベントのスタッフとして企画から参画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で中止となり残念でなりません。

今後は、林道などの今まで携わっていなかった業務についても勉強してみたいと思います。

【職場の雰囲気は？】

和気藹々とした相談しやすい職場だと思います。

周りの人から常に見守られているようで、あたたかい職場だと感じています。

【林野庁の魅力は？】

数ある公務員の中では珍しく現場への出張があることだと思います。事務仕事だけでなく、時折現場に赴くことによって気分転換にもなります。奈良所は庁舎が県北にあり、県南の現場まで遠いこともありますが、車の運転技術を磨くことができます。



森林計画の編成に同行



OJTによる下刈り作業

森林事務所紹介

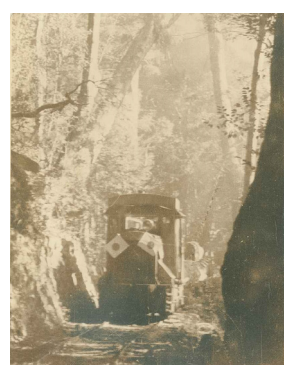
西牟婁森林事務所 (和歌山森林管理署)

森林官 河合 敏宏 (かわい としひろ)

西牟婁森林事務所は、田辺市中辺路町に位置し、田辺市の一部（旧田辺市、旧中辺路町、旧大塔村）、西牟婁郡上富田町、白浜町及びすさみ町を管轄区域とし、6団地3,551haの国有林野と7団地の約470haの公有林野等官行造林地を管理経営しています。これらの森林は、紀伊山地のほぼ中央部の急峻な脊梁地帯^{せきりょう}に位置し、温暖で比較的降水量にも恵まれていることから、豊かな森林が育まれ、また、^{とんだがわ}富田川、^{ひきがわ}日置川、^{こざがわ}古座川などを経て下流の生活を潤す重要な水源地帯となっています。



坂泰山国有林 (田辺市)



坂泰山の森林鉄道等の施設【機関車、運材】

このうち、富田川上流（旧中辺路町）の坂泰山^{さかたいやま}国有林、^{ふるのたに}風呂谷国有林、^{みやしろやま}宮代山国有林を例に紹介すると、もともと旧田辺藩の藩有林であり、いずれも「御留山^{おとめやま}*1」として伐採は禁止されていました。このため、明治初期の段階では、広大な原生林広がっていました。大正末頃から計画的に伐採が進められ、牛馬に木材を引かせるための搬出路の整備が進められたものの、木材の搬出はイカダ流しが主流であり、「てっぽう^{※2}」により川下へ搬出されていました。

その後、昭和4年から田辺営林署（現和歌山森林管理署）により坂泰森林鉄道が着工され、昭和14年度に全線竣工し、昭和7年に創業した官営の福定製材所（旧中辺路町）まで輸送を担っていましたが、昭和28年に廃止されました。森林鉄道跡は坂泰林道に転用されており、現在においても、重要なアクセス路として国有林と民有林の経営や管理のために活躍しています。

さて、最近の動きとしては、宮城川国有林（すさみ町）を近年進めている林業の省力化・低コスト化や獣害対策の試行のためのフィールドとして、冬下刈、大苗の植栽、簡易で効果的な防鹿柵の設置などにより産官学が連携して検討会等を実施するなど、林業技術の普及への貢献に取り組んでいます。

今後も先輩方から受け継いだ豊かな森林を守り育て、多くの国民がその恩恵を享受できるよう、森林事務所として引き続き取り組んでまいります。



産官学連携による現地検討会の様子 (宮城川国有林)

※1 江戸時代、林産物や動物を取ることを禁止された山、または訴訟中の一定期間立入りを禁じられる山をいいます。

※2 「てっぽう」とは木材を組んで小形のダムをつくり、伐採した丸太と水を貯めておいて、増水時にダムもろとも押し流す方法

シリーズ『国有林 最前線!』

～技術者の育成に向けて～

森林整備課

近年では、台風や集中豪雨の影響による林道等の被害が増加傾向にあります。このように被害が発生した場合は、現地の状況を的確に把握し、早期復旧に向け適切に対応していく必要があります、これには林道技術者の育成が喫緊の課題となっています。

このため、当局では、林道被害箇所の現地調査から設計積算、その後の事務処理に至るまでの過程を3箇年の研修で習得させるプログラムを立て技術者の育成に努めています。令和2年度は、2年目の研修を受講済みの研修生を対象として3年目の研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期せざるを得ませんでした。

今年度は、Web環境も整ったことから研修生7名に対し、9月によろやくWebによる3年目の研修を実施することができました。

今回の研修では、1・2年目の研修内容の振り返り、発注者綱紀保持・コンプライアンスの研修に続き、監督業務や積算システムの操作、数量の変更、算出資料の作成等の事務処理等を行い、一連の研修を修了しました。

3箇年の研修を修了したことで、今後、現場での経験を重ねつつ林道等の技術者として現場の第一線での活躍を期待しているところです。

令和3年度土木技術研修日程表

日程	カリキュラム(科目)
第1日	発注者綱紀保持・コンプライアンスについて
	2年目研修のふりかえり 林道事業の計画と実行
第2日	設計・積算の仕組みについて 監督業務について 出来高検知・段階確認等
第3日	演習 積算システムの操作 単価表・明細書等の作成
第4日	演習 変更数量・出来高図・出来高検査等 算出資料の作成
第5日	3年目研修のふりかえり まとめ



Webでの研修の様子



林道施設の学習(1・2年目)



被災写真の撮影を学習(1・2年目)